

ベルリン日独センター
国際交流基金
マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク
国立科学アカデミー・レオポルディーナ

日 程 案

マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク学際地域研究センター
国際シンポジウム

明治維新の遺産——民主主義への道(1868年～2018年)

2018年12月13日(木)～14日(金)

国立科学アカデミー・レオポルディーナ

Leopoldina - Nationale Akademie der Wissenschaften, Jägerberg 1, 06108 Halle (Saale), Germany

会議用語: 日本語およびドイツ語(日独同時通訳つき)

2018年12月13日(木)

12.30 参加者の受付開始

13.00～13.30 開会の挨拶および祝辞

ヨーク・ハッカー(Prof. Dr.、国立科学アカデミー・レオポルディーナ会長)

立川雅和(国際交流基金、ケルン日本文化会館館長)

クラウディア・シュミッツ(ベルリン日独センター事務総長)

クリスティアン・ティーティエ(Prof. Dr.、マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク学長)

13.30～14.30 基調講演「明治の遺産——日本における自由民主主義150年を振り返る」

ゲジーネ・フォリヤンティ＝ヨースト(Prof. Dr.、マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク、学際地域研究センター)

広渡清吾(Dr.、東京大学名誉教授)

14.30～15.00 休憩

15.00～18.00 1868年の決起と政治空間の構造化

司会: ティノ・シェルツ(Dr.、マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク)

三つの身体——明治時代の思想における天皇、国家、民衆

ラインハルト・ツェルナー(Prof. Dr.、ライン・フリードリヒ・ヴィルヘルム大学ボン)

明治時代の社会思想論における男性のフェミニズム——明六社の男女同等論

アネッテ・シャート＝ザイフェルト(Prof. Dr.、ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ)

休憩(16.30～16.45)

明治日本の国家形成と欧米からの物理的距離

五百旗頭薫(Dr.、東京大学教授)

自由民権運動期における権利概念の発展と法律家の役割

河村浩城(Dr.、ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン)

18.00 初日閉会

09.00～12.00 **行動形式および思考形式としての民主主義——1918年**
司会: ヤン・シュミット (Prof. Dr., ルーヴェン・カトリック大学)

小倉処平から安部磯雄、宮本百合子まで——日本における民主主義受容の三段階について
ハラルド・マイヤー (Prof. Dr., ライン・フリードリヒ・ヴィルヘルム大学ボン)

大正デモクラシーと天皇
佐藤信 (Dr., 東京大学助教)

休憩 (10.30～10.45)

大衆の神格化——大正期の外交と内政の繋がりにおける大衆とメディアの役割
ウルス＝マティアス・ツァッハマン (Prof. Dr., ベルリン自由大学)

大正デモクラシー、あるいは民衆イベントとしての歴史について
マイク＝ヘンドリック・シュプロッテ (Prof. Dr., ベルリン自由大学)

12.00～13.00 昼食

13.00～15.30 **1968年と、長い戦後における民主主義の発展——勢力と反勢力**
司会: シュテフィ・リヒター (Prof. Dr., ライプツィヒ大学)

ニューレフトの遺産——市民的不服従、市民社会、民主主義
安藤丈将 (Dr., 武蔵大学准教授)

1968年以降のニューレフトにおける思想および政治実践の不連続性
ティル・クナウト (Dr., ルブレヒト・カール大学ハイデルベルク)

1968年以降の議会主義における司法および法律家の役割
大西楠テア (Dr., 専修大学准教授)

地方政治における民主主義をめぐる闘い——沖縄を例に
ガブリエレ・フォークト (Prof. Dr., ハンブルク大学)

15.30～15.45 休憩

15.45～17.15 **最終討議「明治維新の遺産と自由民主主義——連続性と非連続性」**
司会: ゲジーネ・フォリヤンティ＝ヨースト (Prof. Dr., マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク)

広渡清吾 (Dr., 東京大学名誉教授)

五百旗頭薫 (Dr., 東京大学教授)

佐藤信 (Dr., 東京大学助教)

ガブリエレ・フォークト (Prof. Dr., ハンブルク大学)

17.15 閉会